

ハチ博士の ミツバチコラム

6



京都学園大学
バイオ環境学部
坂本文夫教授

真冬の蜜源植物

童謡「春が来た」の歌詞は「花がさく、花がさく、どこにさく、山にさく、里にさく、野にもさく」で、花は春に咲くということになっていますが、真冬に咲くものもあります。例えば、花木では椿、梅、さざんか、びわなど。草花ではキンセンカ、冬咲きパンジーや寒咲き菜花などですが、どれも開花期間が長いので、蜜源植物として貴重です。これらの中で、私の一押しはびわと寒咲き菜花について述べます。

びわは実を食べた後の種を取って置いて、春先に露地や植木鉢に植えれば発芽します。花が咲きだすには3、4年かかりますが、11月頃から冬の間中少しずつ花をつけ、多くのニホンミツバチが訪花します。面白いのは、防寒のためか、一つひとつの花が毛で覆われていることです。菜の花は春の花ですが、冬咲き

の改良種が寒咲き菜花です。種は種子店で購入でき、夏の終わりから秋にかけて日当たりのよい場所に種蒔きすれば、真冬に咲かすことができます。肥料を多めにすれば密植状態でも良く成長し、多くの花を咲かせます。

ニホンミツバチはセイヨウミツバチより寒さに強く、真冬でも日差しの温かい午後などは巣箱の外に出て蜜集めをします。巣箱から飛び出す温度条件を調べたところ、10℃を越すと巣門周辺に現れ、11℃～12℃になると蜜集めに飛び回ります。寒さに耐えて、実に働きます。



イラスト バイオ環境学部 4回生
林利樹さん